

研究助成（2010 年度募集）研究実績報告書

代表研究者	神戸女子大学家政学部家政学科 助手 西本 由紀子
研究テーマ	公共交通機関におけるベビーカー利用者のバリアの実態と改善に関する研究

< 助成研究の要旨 >

【研究の背景と目的】

鉄道でベビーカーを利用する人(以下、ベビーカー利用者と記す)は大幅に増加しつつあるが、それに伴いベビーカー利用にまつわる事故やトラブルも発生している。

公共交通機関でのベビーカー利用に関する対応は現在過渡期にあり、そのことがベビーカー利用者と周囲の人々との間にある『心理的バリア』を複雑にしていることが考えられる。そこで本研究では、ベビーカー利用者、ベビーカー非利用者、公共交通機関事業者 3 者の意見を集約し、総合的な『バリア』の実態と要因の解明を行う。

【研究の具体的な方法と内容】

関西在住の鉄道利用者に対して、鉄道におけるベビーカーを利用しての子連れ外出についての意識を把握するため、アンケート調査を実施した。

鉄軌道、路線バス事業者に対し、ベビーカー利用に関する指針・車両内における取扱い方法についての現状把握を郵送調査法で実施した。

先進事例について、交通事業者へのヒアリングとベビーカー利用者の観察調査を行った。

【研究の結果と成果】

本研究では、鉄道車両内におけるベビーカー利用に対する意識について、関西在住の鉄道利用者対象の意識調査の結果を、子育て経験別、末子年齢別に分析を行った。全体的にベビーカー利用者の鉄道利用に対して、肯定的な意見が多くみられた。ベビーカーを折りたたまず乗車することについて、子育て経験別では意識の違いはなかったが、末子年齢では違いがみられた。公共交通機関におけるベビーカーの利用に対する意識については、「良識の範囲内で」と回答する人が多くみられたが、その「良識の範囲」が人により大きく違うことがわかり、今のベビーカー利用者と非利用者間に心理的バリアが生じる要因の一つとなっていることが明らかとなった。

事業者へのアンケート調査より、路線バスではノンステップバスの導入が進むにつれ、ベビーカー利用に関する規定やベビーカー設置スペースを設ける事業者が増加していることが明らかとなった。鉄道では、大半の事業者がベビーカーを広げたままでの乗車を認めているものの、さまざまな条件が想定されるため、規定を設けることは妥当ではないとしている。ベビーカー利用者の重大な事故につながる恐れのある事例も散見され、現段階ではベビーカー利用者のモラルと周囲の相互理解に期待するしかないのが実際のようなのである。

またベビーカーメーカーは、バス車両内での使用は禁止、鉄道車両内は自己責任において十分注意して使用することとしている。

【今後の課題】

『心理的バリア』を改善するためには、まず、周囲からの理解を得られるようマナーの向上を早急に進める必要がある。子連れ外出(特にベビーカーの利用)方法の DVD を作成し、出産前後の母親学級や乳幼児健診などで普及させ、安全・安心に配慮したベビーカー利用を周知させる。そのうえで、ベビーカー設置スペースなどハードの整備を求めていくことが必要であると考えられる。